

普及活動情勢報告（平成29年12月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

山北ミカンの販路拡大のためのチャレンジ！



香南市農業活性化地域協議会は11月24と25日、高知空港で露地ミカンおよび加工品のテストマーケティングを行い、生産者4名が参加しました。

協議会は、JA土佐香美露地みかん部会、香南市、農業改良普及課等で構成し、露地ミカンの販路拡大のための新ギフトBOXや加工品開発を行っています。

今回はこれらの試食販売も実施しました。「味が濃い」と言って即購入する等好評でしたが、「マークが見づらい」「文字が多い」等、デザインの課題も見つかりました。

農業改良普及課は、購入者へのアンケートを担当しましたが、今後も、露地ミカンの販路拡大のための協議会の活動を支援します。

高知の冬野菜「葉ニンニク」の出荷はじまる



JA南国市葉ニンニク部会は11月27日、本格的な出荷を前に目慣らし会を行い、生産者8名が参加しました。

JA南国市担当者から出荷規格や荷姿の注意点の説明があり、生産者からは、葉の除去方法や程度などの質問がありました。

農業改良普及課からは、近年アザミウマ類の被害が多く防除しきれないとの生産者の声が多いことから、病害虫の課題について生産者へのアンケートを実施しました。また、鮮度保持技術について農業技術センター担当者から紹介してもらい、葉ニンニクにおける技術利用について投げかけを行いました。

今後も生産及び品質向上のための部会活動を支援します。

はちきん農業大学 中央東版～環境制御技術について研修しました～



11月27日、南国市で環境制御技術活用事例研修会を開催し、受講生12名（内夫婦1組）が参加しました。炭酸ガスを施用しているピーマンほ場では、施用前と施用後の作柄・栽培管理の違いについて生産者から話を聞きました。農業技術センターでは、4品目の環境制御技術関連の試験内容と経過について研究員から説明を受けました。

受講生からは、炭酸ガス濃度やかん水管理のタイミングなどについて質問が飛び交うなど熱心な現地研修会となりました。

今後は、受講生のアンケート結果を整理しながら、次年度の講座内容の検討や新たな受講生の確保に向けて、取り組みを継続します。

JA 土佐香美なす部会現地検討会および女性だけの現地検討会を開催しました！



JA 土佐香美なす部会で12月8日に女性だけの現地検討会(9名)、15日に全体の現地検討会(11名)を開催しました。一芽切り返しや摘葉など厳寒期に向けた栽培技術の基本の確認、病害対策、かん水と光合成を絡めた環境制御の有用性を説明しました。

参加者から、「どこを切り戻すか、どの葉を除くか迷わなくなった」や「厳寒期でもかん水が不足しているのがわかった」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、JA土佐香美なす部会や関係機関と連携して、現地検討会や勉強会などで情報発信を行い、栽培技術向上を支援していきます。

南国市施設園芸環境技術研究会の現地検討会開催



南国市施設園芸環境技術研究会は、平成27年に設立され、環境制御機器・技術の導入推進・実践に取り組んでいます。11月22日にはシシトウ・ピーマン栽培ハウスで、12月8日にはシシトウ・甘とう・オオバ栽培ハウスで、12月18日にはシシトウ・ピーマン・キュウリ栽培ハウスで現地検討会を行いました。「品目が違ってても基本は同じ」、「自分の栽培品目にも役に立つ」との思いから品目を横断して行っています。また、11月14日には、先進的な栽培技術の実証を行っている高知県担い手育成センター(四万十町)への視察を行いシシトウ・ピーマン・ナス・トマト・ニラ栽培について勉強しました。農業改良普及課は、研究会活動の支援や現地検討会での助言等を行いました。

農業改良普及課は、研究会活動が積極的に行われるよう支援するとともに、環境技術の普及推進に取り組んでいきます。

隣接市の先進事例を学ぶ ～第1回南国市集落営農塾の開催(組織化コース)～



11月30日、南国市内の農業者等12名で、高知市の集落営農組織「介良沖ノ丸環境保全農業組合」及び水田利活用の取り組みを視察しました。

農業改良普及課からは、車内で集落営農の必要性等を啓発して視察の意欲を高めました。

視察先では、大型機械を組織が整備し、組合員の営農をサポートする仕組み等を学んだり、JA露地野菜部の水田裏作の取り組み(カイランサイ)や、湿田解消対策(地下水位制御装置)の試験状況等の情報を得ることができました。

参加者からは、「営農をサポートする仕組みや、ほ場整備後の水田利活用の方法など大変参考になった」と意見がありました。

今後は関係機関と協力して志向集落等へ働きかけを行い、ほ場整備後の担い手の一つとして組織化を支援していきます。

